

敬愛短大附属幼稚園だより 12月号

これからの季節は、北海道を中心とした東日本各地では西高東低の冬型の気圧配置が強まり、シベリアからの寒気団が日本列島を覆う日が多くなります。日本の秋は、本来ならば秋雨前線の影響で雨天日が多くなったり、移動性高気圧で良く晴れたかと思うとすぐに曇ってしまったりするのが秋という季節感ですが、今年はかなり遅くまで台風に伴う豪雨や強風で本来の秋が短かったように思います。

幼稚園では季節ごとの行事があり、自然環境とは別に季節感を感じられます。来年は自然災害の少ない年であることを祈りますが、日本は昔から自然災害が多く、その自然災害と戦ってきた歴史があります。冷害で稲が育たなかったり地震や津波の被害を受けたり、記録に残っているだけでも相当数あります。こうした自然災害は私たちが住んでいる日本列島では避けられないものですので、最小限の被害に留めたりする方法や知恵を常に学んでおく必要があります。

今回の豪雨等で、学んだことは多くあったと思います。離れた地域の災害はとかく他人事のように思いがちですが、千葉県で大きな被害に遭われた方が「こんな災害が身近なところで起こるとは思いませんでした」と話されています。幼稚園では地震や火災に備えた避難訓練は定期的に行っていますが、本当に災害が起きた時を想定しておかないといけないという危機感を常に持っていないといけません。このようなときは常に普通とは異なる想定外のことが起こるといった基本的な認識を持ち、その時の備えを万全にしておくことが必要であることを肝に銘じておきたいと考えます。

ご家庭でも、様々な場合の災害時対策をシミュレーションし、通信や交通マヒ等の状態を念頭に入れて、お子さんの引き取りをどのようにするかまで考えておく必要があります。当然ですが、幼稚園外が危険と判断した場合、お子様は幼稚園内に留め、全職員が保護者の方に確実に迎えいただけるまで全力で守ります。また、自然災害だけでなく、幼稚園バスが他の自動車と衝突するなどの事故も全国で発生しました。バスに非はなくても事故に巻き込まれることがありました。本園の幼稚園バスのドライバーさんにも定期的に安全運転についてお話をさせていただくと共に定期点検も必ず実施しております。様々な事故や災害についてお子様と話をする良い機会でもありますので、この機会にご家庭でも災害と安全についてお話しください。

来年度以降の幼稚園のチャレンジする方向について以下の2つのプロジェクトを立ち上げ、遊びの開発を進めていきます。

1 “ことばの泉” づくりプロジェクト

美しい日本語を身につけ、語彙力を高めることにより（学び）、表現力豊かなコミュニケーション能力（使う）を育むための基礎を身に付けるためのプロジェクトです。

このプロジェクトについては、ソニーの幼児教育支援プログラムに応募した論文にも記載したのですが、大学生でも語彙が少なかったり、美しい日本語を話すことが出来なくて就職面接で苦労したりすることがあります。分析してみると、義務教育段階では朝読書などで結構本を読んでいるのですが、皆同じように高校生の段階で本を読むことが非常に少なくなっています。（特に高校レベルでの難易度の高い読書が大切）義務教育時代から継続して読書することを楽しみ、文章から背景を思い描いたり、ことばからイメージや考えを深めることを心掛けるトレーニングを続けると、考える力や想像力が身に付きます。（短時間では身に付かない力です）

2 科学的環境づくりプロジェクト（幼稚園内丸ごとミュージアム計画）

園内各所で、いつでも・どこでも子どもたちが科学的な遊びができる環境づくりプロジェクト（子どもたちが科学的な遊びを楽しみ、遊び方を考える場づくり）

【具体例】

- 伝声管（音の伝わり方遊び） ○光の反射遊び（光と影の遊び）
- 船のような形をしたアオギリの葉と種子を2階からクルクル回転しながら落下させ、階下でそれを入れ物で受け止める遊び（葉と種子の動きと身体の運動）等

（園長 杉山清志）